

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和3年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (10月27日実施)	総合評価 (3月17日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①工業に関する専門教科・科目を中心に、理数教育及び外国語教育の充実に注力した教育課程編成を行う。</p> <p>②グローバルコミュニケーション能力育成のための教育のさらなる検討を行う。</p> <p>③創造的な問題解決力を育成するために、生徒が主体となる双方向授業を展開する。</p> <p>④実践的・体験的学習を重視して、自ら課題を発見し解決するための力を育む授業改善を実施する。</p>	<p>①新教育課程編成表の2年目の導入を見据えて、各教科で使用する教材等の充実を図る。</p> <p>①新教育課程の科目における「単元の指導計画」を作成し、生徒の教育の充実を図る。</p> <p>②外部講師による英語講習に加えて、スタディサプリによる英語学習の充実化を図る。</p> <p>③④スタディサプリの導入にあたり教科・グループと連携しタブレットの活用も含め、校内全体での活用を検討する。</p> <p>③④新教育課程に対応した2年生課題研究の内容を検討する。</p>	<p>①生徒に身に付けさせたい資質・能力の育成に繋がる教科書・副教材を選定する。</p> <p>①新教育課程における令和4年度開講科目の「単元の指導計画」の作成を促し、授業が円滑に行えるように管理する。</p> <p>②スタディサプリの活用支援および外部講師による英語講習との住み分けを考える。</p> <p>③④スタディサプリ配信週間を実施すると共に各科目の年間指導計画にも組み込むことで活用の定着を図る。</p> <p>③④2学年課題研究に企業と連携したプログラムの導入する計画を立てる。</p>	<p>①適切な教科書・副教材を選定できたか。</p> <p>①新教育課程における開講科目の「単元の指導計画」の作成ができたか。</p> <p>②独自の実用英語技能検定試験への勉強マップの作成ができたか。</p> <p>③④各教科の各学期においてスタディサプリの配信ができたか。また生徒全員がスタディサプリを活用し学習することができたか。</p> <p>③④新カリキュラムに対応した内容で、企業と連携した計画を作成できたか。</p>	<p>①適切な教科書の選定は終了した。今後は、副教材の選定を行う。</p> <p>①「単元の指導計画」については、3月の県への報告に向け作成を継続している。</p> <p>②今後、英検の1次試験対策はスタサブを活用し、2次試験対策は外部講師による英語講習を活用しようと考えている。</p> <p>③④「スタサブ配信週間」を通し教員側の活用を促すことができた。到達度テストの振り返りを映像放送で行い、全校生徒に対し活用に向けた取組みができた。</p> <p>③④知的財産教育に(株)富士通総研の課題発見・解決力の育成手法を取り入れた計画が立案できた。</p>	<p>①新教育課程移行期間中のため、適切な選定を行う必要がある。</p> <p>①作成にあたり指定された書式のある教科があるため、注意や確認を行う必要がある。</p> <p>②昨年度まで、英検1次・2次試験ともに外部講師による英語講習で試験対策を行っていたが、今年度よりスタディサプリを導入したので、住み分けをどうするかが課題となる。</p> <p>③④6月に1回目を実施できた。11月に2回目の配信週間を行い引き続き活用に努める。</p> <p>③④他グループ・各工業科と連携して計画を進める。</p>	<p>スタディサプリの導入により、さらに学習指導を充実したものにしようとしており、よいと思います。導入時でいろいろ大変と思いますが、「創造的な問題解決力」、「自ら課題を発見し解決するための力」を育成するためにどのように活用していくべきか今後検討できればさらによいと思います。</p> <p>外部講師による英語講習とスタディサプリとの住み分けについて、個人的にはスタディサプリで学んだことを外部講師や生徒同士で実践するなどいいのではと思いました。またスタディサプリのメリットは、各教科高校・中学単元に関わらずそれぞれの箇所に戻って復習できることだと思います。</p>	<p>①今年度開講した新教育課程の科目については、「単元の指導計画」は作成できた。引き続き、来年度以降も新しく開講する科目の「単元の指導計画」を作成し、生徒の教育の充実を図って行く。</p> <p>②英検対策を外国語科の職員による補習またはスタサブを用いて行った。その結果、準2級及び3級の合格者が昨年度比1.5倍になった。今後は職員の負担軽減のため、スタサブの併用のしかたについて検討する。</p> <p>③④スタサブの生徒の登録率99.4%、到達度テスト2回、スタサブ配信週間6月、11月を実施できた。共通教科からの配信に加え、工業教科の計算練習、英検の対策講座も配信され、幅広い活用ができた。</p> <p>③④今年度の2年課題研究をスケジュール通りに進めることができた。また来年度の知的財産教育の計画を立案し、補助金の申請を行った。</p>	<p>①来年度以降の「単元の指導計画」の作成にあたり、今年度作成に必要であった内容や項目を踏襲し、円滑に作成できるように適宜注意や確認を行う。</p> <p>②外国語科の先生方の英検補習の負担軽減のために、来年度は、夏季長期休業中に行う外部講師による英語講習1次試験対策を復活させようと考えている。</p> <p>③④学年や教科によって配信数にアンバランスが見られる。また工業科でも数学や物理の復習講座などを配信しやすいように、使いやすい講座の例を抽出して利用環境を整える。</p> <p>③④今年度、補助金の執行が年末年始に集中したため、各教科に計画的に執行するよう促す。来年度から企業連携の内容が加わるため、各部署と連携して授業展開を円滑に進める。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①多様性を理解し、来たる国際社会の一員として活躍できる人間性の育成を図る。</p> <p>②リーダーシップや協働意識を養い、生徒の人間性の育成を図る。</p>	<p>①計画的に講演会を配置し、自他の違いを理解して他人を尊重できる人格を育てる。</p> <p>②学習活動や様々な行事の中で、仲間を尊重し合い、誰もが安心安全な学校生活を保障できるように、個に応じた支援体制を充実させる。</p>	<p>①3年間を見通した講演会の配置。</p> <p>②年間を通じた計画的な基本的な生活習慣指導の実践。</p> <p>②全職員による指導・支援体制の構築。</p> <p>②効果的な支援情報の共有体制。</p>	<p>①効果的に講演会を実施できたか。</p> <p>②生活習慣指導を計画的に実施できたか。</p> <p>②指導・支援体制の構築ができたか。</p> <p>②情報の共有が効果的にできたか。</p>	<p>①携帯電話、多様性デートDV、薬物乱用防止などの講演会を実施できている。</p> <p>②登下校指導、校外指導等を計画的に配置実施できた。</p> <p>②特別指導体制について、学年中心の対応を構築中である。</p> <p>②生徒の情報をできるだけ収集できる体制を継続している。</p>	<p>①授業の関係で各学期の終盤に集中することが多く、講演会の精査が必要。</p> <p>②登下校指導など生徒支援Gr以外の協力が今以上に必要と感じる。</p>	<p>多様性講演会、デートDV講演会、自死に関する知識を深める講演会など、生徒の皆さんおよび先生方が学び考える機会を用意されているとのこと、感銘を受けました。</p>	<p>①各講演会を通し、社会で直面する様々な危険性やその対応を考える機会を設けた。</p> <p>②登下校指導、校外指導等計画的に配置実施できた。</p> <p>②特別指導体制について、科を中心とした対応ができる方策を検討する。</p> <p>②情報提供方法、情報共有のタイミングなどマニュアル化の徹底が必要である。</p>	<p>①各講演会の効果的な時期や場所について検討する。</p> <p>②特別指導の件数が増加傾向であるため、事案が発生した時の職員対応のさらなる共有化が必要である。</p> <p>②内面の問題を抱える生徒が近年増加傾向であるため、全職員で支援ができる体制を進めえる必要がある。そのための校内研修を充実させる。</p>

視点	4年間の目標 (令和3年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (10月27日実施)	総合評価(3月17日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	生徒のキャリア発達を、正しい勤労観や職業観に基づく進学する意味や就職する意味について、十分に理解した段階まで引き上げる。	①生徒のキャリア発達の醸成を家庭からも促す体制を整えて、家庭と学校が連携して生徒のキャリア発達を支援していえるようにする。	①保護者の進路に対する意識を醸成するために、PTAと連携して各学年保護者対象の進路指導説明会を実施する。	①各学年保護者対象の進路指導説明会を実施できたか。	①各学年保護者対象の進路指導説明会を実施する事ができ、保護者の進路に対する意識の醸成を図る事ができた。	①3年生保護者対象の進路指導説明会についてはアンケート結果より、「進学希望者向け」と「就職希望者向け」に分けて実施して欲しいという要望があったので、日程等も含めて、今後の課題となる。	生徒への進路指導とともに、保護者の進路に対する意識を醸成することは、よい取り組みと思います。正しい情報を提供する。例えば、「機械」と聞くと女性は就労しにくいと思われる保護者の方もいるかもしれませんが、決してそのような就職先ばかりではありませんので、保護者の皆様へ各分野の正しい情報提供など行うことは有意義なこととおもいます。	①成果として、今年度、保護者対象の進路指導説明会を実施する事ができた。コロナ禍という事で、オンラインの配信と同時行えた事は大きな収穫だった。アンケート結果より、実施に関して「良かった」という意見が9割を超えていたので、今後も継続していきたい。 一方、課題としては、こちらもアンケート結果より、3年生対象のものに関しては、「進学者向け」と「就職者向け」に分けて欲しいという要望があった。	①来年度も引き続き、1～3年生保護者対象進路指導説明会を実施して、生徒のみならず、保護者の進路意識の醸成を図っていきたい。 3年生の保護者対象進路指導説明会に関しては、「進学希望者向け」と「就職希望者向け」に分けて実施したい(両方参加も可)。
4 地域等との協働	①各種連携や地域との協働を通じた生徒の創造的な問題解決力を養う。 ②専門高校の教育内容や理工系進路における他学科に対する優位性を地域や中学生に理解してもらう。	①中学生のSNSの利用状況の調査し、その結果を反映した広報活動を企画・実践する。 ②本校Webページの進路に関する部分の充実を図る。	①1年生対象のアンケートにSNS利用の項目をあらたに追加し結果をまとめる。 ②工業系専門高校からの進学は他学科に対して優位である事を示すために進学に特化したページを作成する。	①アンケート結果から効果的かつ継続的に広報活動を行うことができたかを閲覧数やフォロワーの増加数で検証する。 ②進学に特化したページを作成する事ができたかどうか。	①アンケートの結果から引き続き、中学生の9割以上が利用しているYouTubeを中心にその他SNSを活用し広報を展開する。 ②進学に特化したページを現状作成できていない。	①SNSでの広報力において各工業科において各工業科で、ばらつきがあるためアップロード手順などのマニュアルを作成しSNS環境の整備を図る。 ②今後、作成予定である。	TECH LABが開催の方向であることを知りました。中学生に対しては、御校の生徒さんと直に交流するそのようなイベントはとても貴重で、そこでの体験が進学先の選択に大きく関わってくるものと思いますので、とてもいい試みだと思います。	①公式SNSを利用した広報力のばらつき解消に向けて公式TwitterとInstagramのマニュアルを作成し、職員で共有した。またクリエイション部と連携し、部活動紹介動画の制作も積極的に行うことで、中学生に各部活のPRもできるようになった。 ②現在の本校webページに加えて、「進学のページ」「就職のページ」を制作する事が今後の課題となる。	①今年度作成したマニュアルなどの活用を各部署に促し、学校全体で情報発信できるように、行事やイベントごとに各部署に連絡をして更新作業を実践してもらう。来年度も説明会や体験教室を可能な限り実施して工業教育の魅力を中学生に伝える。 ②来年度、現在のページに加えて、「進学のページ」「就職ページ」に分けたページを充実させる。
5 学校管理 学校運営	①創造的な問題発見・解決能力及び先端技術活用力を養う教育活動のための環境について、より一層充実させる。 ②生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①ICT機器を活用した教育活動を実施できる環境整備を継続して行う。 ②校務の効率化を図るためオンライン会議等の活用を推進するが、職員間のコミュニケーション低下とならないよう改善を図る。	①新入生及び新着任者等、本校ICT環境に不慣れな者へのネットワーク接続、及び端末使用方法等のサポートを行う。 ②オンライン会議におけるコミュニケーションツールの積極活用を行う。	①タブレット端末の円滑なネットワーク接続、及び管理体制の構築。端末使用方法のマニュアルを作成し発信できたか。 ②コミュニケーションツールの使用方法等発信し、会議中に職員間で活発にそれを利用することができたか。	①校内全ての教室でネットワークに接続できる環境、及び管理体制を構築できた。また、新着任者、新入生向けにマニュアルを発信し円滑にICT機器を使用できるようにした。 ②会議等は基本オンラインで行い、ホスト役を輪番にし、職員間でツールの積極的な活用を促進した。	①担当職員が異動しても対応できるよう引継ぎマニュアル等の整備、サーバへのデータ保管方法の最適化を行う。 ICTによる校務の効率化を図り、教材開発や生徒と向き合う時間を確保したいと思っています。 ICT環境の整備時に機器の事だけが優先され、リテラシー教育が疎かになる事が多く発生しております。皆様で、ITを技術活用する場合に気を付けること、活用方法の学習を継続的に行える環境の整備もぜひ力を入れて頂きたい。	①生徒1人1台端末の導入を行い各端末は校内のBYODに接続登録を行った。また、無線LANアクセスポイント設置場所の最適化を行い、校内全ての教室でBYODに接続できる環境整備を行った。次年度は生徒各自の端末を用いた活発な授業展開ができるように推進する。 ②オンライン会議を活用することで会議時間の短縮、会議等による出張数を削減でき、放課後の生徒対応の時間を増やすことができた。PTA活動などもオンライン会議等を積極的に利用し保護者負担の軽減等取組みを行いたい。	①生徒1人1台端末を活用するツールの活用方法や授業展開など教員向けの講習会などを行い端末の積極的な活用方法の研究を推進する。 ②オンライン会議に必要な機材や設定方法等のマニュアルの整備を行い、PTA活動等でも積極的に活用してもらうように推進する。	

